

那覇空港滑走路増設工事を見学して

一般社団法人 日本埋立浚渫協会 施工委員会 作業船部会

作業船部会の平成 28 年度の主な活動としては、意見交換会に向けた「作業船の合理化・適正化」に関する調査研究、稼働実態に即した「船舶および機械器具等の損料算定基準」の調査と考察、「作業船および環境技術等」に関する調査研究を行っている。今年度から前項に加え作業船の技術資料に関する調査研究などを開始している。今回、部会は調査の一環として、平成 28 年 10 月 6 日に那覇空港滑走路増設工事を見学する機会を得たので紹介する。

1. 概要

■那覇空港滑走路増設事業の概要

見学に先立ち、那覇空港滑走路増設工事安全協議会の野谷斎協議会会長から、那覇空港滑走路増設事業の概要と、協議会の活動概要の説明を受けた。また、安全協議会の航行安全部会の原田信部会長から、作業船の航行管理についての説明を受け、現在工事を行っている主な施工会社の所長からそれぞれの工事概要を説明していただいた。



概要の説明(協議会会議室)

那覇空港は、沖縄の玄関口として国内外各地を結ぶ拠点空港であるとともに、県内離島と沖縄本島を結ぶハブ空港として重量な役割を果たしている。沖縄県の観光・リゾート産業のみならず、生活物資の輸送や県内農作物の出荷などを通じて県民生活や経済活動を支える重要な社会基盤となっている。このため、将来の需要に適切に対応し、沖縄県の持続的発展や、将来にわたり国内外航空ネットワークにおける拠点性を発揮することを目的とし、那覇空港の沖合に 2 本目の滑走路を新設している。

2. 作業船の運航管理

那覇空港滑走路増設工事安全協議会では様々な部会を組織し、事業者である沖縄総合事務局や関係諸官庁、

関係団体・地域住民との連携を図りプロジェクト全体の安全及び事故防止等に必要な措置を講じている。中でも工事に関係する作業船は多数にのぼり、その運航管理は海上の安全を確保する上で重要なものとなっている。

ここでは、那覇空港滑走路増設工事安全協議会 航行安全部会で行っている、那覇空港で就役している作業船の運航管理の概要を紹介する。

■航行安全の組織

那覇空港滑走路増設工事における航行安全管理の組織は右図のとおりとなっている。

航行安全部会の航行管理室では、発注者や那覇支援業務室と綿密に連絡をとり連携を図りながら、各工事で就役する作業船に対する動静把握や情報提供、注意喚起及び那覇港入出港に関するの指示等を行っている。

那覇支援業務室とは、那覇空港滑走路増設事業の実施に当たり、一般船舶や工事関係者に対して工事海域付近通航船舶や那覇港入出港船舶に関する情報を一元的に提供し、海上交通の安全を支援する組織である。

航行管理室には以下のような設備を持ち、また一部通信設備を関係先へ貸与したり、各工事にて準備する通信設備によって業務を行っている。

【航行管理室の設備】

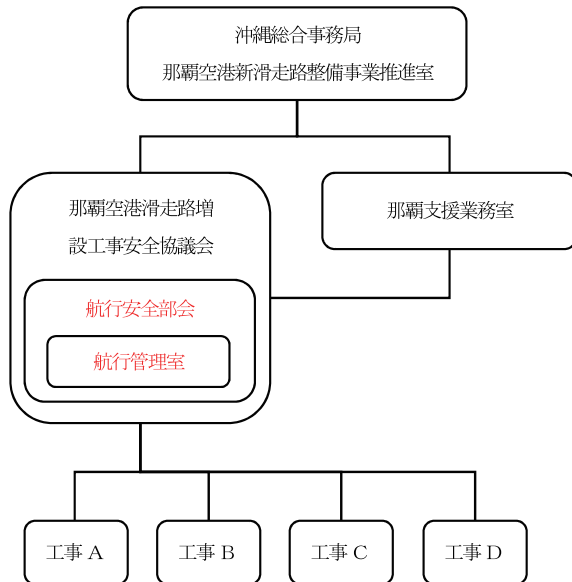
- ・電話、FAX(インターネット電話)
- ・MCA 無線(元請交信用 1 台)
- ・5W 簡易無線(作業船交信用 1 台)
- ・VHF 無線(傍受のみ)
- ・簡易 AIS モニタ
- ・望遠鏡、双眼鏡

【航行安全部会から貸与している設備】

- ・MCA 無線(元請交信用)
各工事に 2 台貸与
那覇支援業務室に 1 台貸与

【各工事で準備する設備】

- ・5W 簡易無線(作業船交信用)
引船、押船、大型自航船等
- ・簡易 AIS(作業船確認用)
引船、押船、大型自航船等



航行安全管理組織図

5W 簡易無線や簡易 AIS は、那覇空港滑走路増設工事に関わる、小型船舶を含むほぼすべての作業船(船外機は除く)に搭載しているということであった。AIS は本来総トン数 500t 以上の船舶に搭載を義務付けられているものであるが、プレジャーボートや漁船など総トン数 500t 未満の内航船舶や非自航の作業船にも任意で搭載できるのが簡易 AIS である。

航行安全部会では毎日 11 時に、各工事の作業船運航管理者と航行管理室の管理担当者が集まって運航調整会議を行い、翌日の作業予定の確認や、一般船舶の動向把握と情報共有、作業船の運航調整を行っている。この作業予定は当日のうちに航行安全部会でまとめられ各工事へフィードバックされるとともに、入出港船舶予定として那覇支援業務室へも伝達し情報共有が図られている。

当日の情報管理体制としては、前日の作業予定に基づき各作業船の動向把握を行い、那覇港に入出港する作業船と簡易無線により綿密に連絡をとりながら、他船の動向により待機や入出港時間の調整など必要な指示を与える。それらの作業船の動向は逐一那覇支援業務室へ MCA 無線で連絡し、情報共有を行っているということであった。また、1 日の作業終了は全ての作業船の係留位置を確認し、個別に連絡をとって作業終

了の確認を行っており、簡易無線や簡易 AIS を搭載していない船外機にいたるまで、各工事の元請会社に連絡をとって確認するところまで徹底されていた。

航行管理室は、那覇港を一望できる立地のビルの最上階にあり、望遠鏡や、双眼鏡の目視によって那覇港の入出港船舶を確認することもできた。

このような多数の作業船が就役する大型工事では、台風・荒天時の避難場所の確保に苦慮することが予想されるが、航行安全部会では、そういった各作業船の避難場所の確保・調整も行っていった。那覇港や糸満港、運天港を主な避難港とし、大型作業船を中心に各避難場所への割り振りを調整しているということであった。平成 28 年 7 月には最大 150 隻もの作業船が就役して避難場所の調整に苦慮したというお話であった。現在も 80 隻の作業船が就役しているとのことであった。

見学会当日は航行管理室の業務の様子を拝見させて頂いた。このときは台風 18 号が通過した直後であり、台風警戒が解かれたばかりで作業船の運航は多くなかったため、比較的落ち着いた状況であったが、船舶の監視や作業船と支援業務室との連絡の様子は明瞭かつ簡潔に行われていた。最盛期や作業船の入出港が集中する時間帯では、航行管理室の運航管理業務は非常に忙しく、戦場のような有様になるというお話があり、日々緊張感を持って業務に当たられていることが伺えた。

3. おわりに

今回、見学会開催にご理解頂きました沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所、またご多忙中にもかかわらず、ご説明を頂きました那覇空港滑走路増設工事安全協議会の野谷会長及び各施工会社の所長をはじめ、現場見学でお世話になった関係者の皆様方に感謝申し上げます。

(作業船部会 あおみ建設株式会社 熊 天幸)

